

1 学期期末テスト結果について

開明・小中学部・津新町駅前校では、随時、小中学生の無料体験学習を受け付けております。

はじめに

以下の文章は、開明内部生および保護者様に配布させていただいた、中学生 1 学期期末テスト結果総評を改訂したものです。現在、塾をお探しの方、開明を詳しく知りたい方はご参考にしてください。

(9月に入ると、2学期中間テスト無料対策講習も開講していきます。合わせてご利用ください。)

新型コロナの影響で、中間テストがなくなり、今年の 1 学期は期末テストのみとなりました。範囲も広くなり、モチベーションを保つ意味でもいろいろと大変だったと思いますが、塾生全体の結果としては良かったと言えそうです。塾生の皆さんは本当に頑張ってくれました。

以下に、今回の期末テストの総括を報告させていただきます。また、開明では、学習指導要領の改訂に伴う新傾向の問題（今年の各中学の問題傾向）に対して、随時、必要な指導を取り入れています。

総 評

(※「2020 1 学期期末テスト結果 開明小中学部 津新町駅前校」をご参照ください。)

●レベル・新傾向について

全学年とも、学習指導要領の改訂に伴い、考えて、作文する問題が多くなっており、90点以上の高得点が今までよりも難しくなっている印象です。

特に文系教科は、覚える教科・暗記教科と言われてきましたが、英語、社会、国語の難易度がいちばん上がっています。理科も一昔前までは高校で学習していた内容がどんどん組み込まれており「ここまで覚えなければならないのか？」という内容になっています。

数学も解き方を文章で説明させる問題（必要なのか？）などが出題されており、レベルは上がっています。

●塾生平均点と前回の学年末テストからの伸びについて

塾生平均点も大切ですが、それ以上に塾生がどれだけ点数を伸ばすことができたのかが重要であり、その点では今回は及第点を取れたと思います。全員ではありませんが、かなりの塾生が今回は成績を伸ばすことができたことを本当に嬉しく思います。**塾生平均点は全学年とも390点代(学校平均は一部の中1を除けば、どの学校・学年を見ても、だいたい290点～340点の間です)であり、次回は大台の400点に挑戦していきます。**(今回は、200点台から300点台に、300点台から400点台に伸ばすことができた塾生が目立ちました。)**「塾生全員を津高校に入れる学力を身につけさせてあげたい」という高い目標にどんどん近づけていきたいです。無謀と言われようが、我々指導者が高い目標を持ち、努力を継続することが何よりも重要だと考えています。**

●中3

前回より全科目とも塾生平均点が伸びました。前回(中2生3学期期末テスト)に比べて、問題が易しいという印象はなく、むしろ例年になく新しい傾向を取り入れた難易度の高かった問題だったと思います(中学により若干の差はありますが)。5教科合計で34.9点の伸びは、ここ数年の開明としては最高の伸びであり、非常に嬉しく思います。気合が入っている塾生が例年以上に多く、講師も気合が入っていたと感じています。

●中2

前回より全科目とも塾生平均点が伸びました。中だるみの学年と呼ばれていますが、テスト結果の塾への提出も全学年でいちばん早く、今回いちばん結果が出た学年であり、予想外の結果に本当に嬉しく思います。

5教科合計で47.9点の伸びは、ここ数年では当然一番の伸びであり、塾生は本当に頑張ってくれました。(点数は、そもそも毎回伸びるものではありませんが、開明として、新年度より指導体制を一新しており、結果が出たことを嬉しく思います。)

●中1

中1の中間テスト結果から中1の期末テスト結果は、平均点が大幅に下がると言われているように、中1の中間テストは範囲が狭く、小学生からの移行期として、レベルも学校が考慮して低めにしてくれることが多いです。その中間テストがなくなり、今回はいきなり期末テストとなりました。範囲が広く、蓋を開けてみると、レベルも英語を除いては、完全に中学生の問題レベルとなっていました。「いや、むしろこの1年生の国語は、3年生の国語より難しかったような・・・」という厳しいレベルのテストが多かったです。今回の塾生平均点は391.5点でした。良い?悪い?というよりも、とにかくまずこの結果がスタートとなります。「学校で一番だった。」と報告してくれた子もいれば、「思ったより悪かった。」と、小学生のテストの点数と比べて落ち込んでいる子もいました。大切なのは、今回の取組に対しての結果であるということをもまずは自覚することです。結果が良い生徒は「なるほど、これぐらいの学習でいいんだな。もっと上を目指すならもう少し頑張ればいい。」ということが分かり、結果が出なかった生徒は「勉強量が足りないだけでなく、覚え方が甘かった。これぐらいの勉強でこの点数なら、次回はもっと頑張る必要がある。」ということなどが分かってもらえればいいと思います。

●国語

学習指導要領の改訂により、国語は、ほとんどの学校・学年とも、最後に作文を書かせるなど記述式の問題が多くなった傾向があります。読解力だけでなく作文力がないと高得点は難しくなっている印象があります。学校別にみると、西郊中の国語が難しかったと思います。量が多く、難易度も高く、作文に入るまでの時間配分に失敗すると点数が取りづらかったと思います。ほとんどの中学では、ワークそのものの問題は出題されませんが、ワークをしっかり理解しておくことで解ける問題が多く出ていました。そして、80点以上を取るには、漢字や文法などの暗記分野で点を落とさないこと。90点以上は、暗記は完璧にして、その上でワークをしっかりとやりこみ、あとは教科書を熟読しておくことが重要であると感じたので、早速次回のテストからそのあたりの指導を強化していきます。

●社会

(学校によりますが)難しかった印象です。

近年、記述式の問題が多くなってきていますが、学習指導要領の改訂に伴い、今年は非常に記述式の説明を書かせる問題が増えている傾向にあります。学校によっては問題の半分が記述説明（漢字ミスも減点）、さらに 100 字程度での説明など、もう入試問題とレベルが変わりませんでした。とはいえ、記述式の説明問題もほとんどはワークや資料集の問題から出題されているので、要は完璧に理解して暗記しておけば 90 点は確保できるレベルだったと思います。西橋内は中 2 の社会を中心に難しかったですね。社会としてはレベルが高い問題が多かったです。西橋内・附属などは、教科書の読み込みまでしっかりやっておかないと高得点が難しい問題でした。

●数学

レベルは易しくありませんでしたが、塾生は頑張ってくれたと思います。数学は丸暗記でなく、理解して解く訓練をしておかないとテストでは点が取れません。集団授業だけだと、一方的に説明され、自分で考えて解くという訓練が疎かになりがちです。結果としては中 3 と中 2 は 5 教科で一番良い結果になりました。注意すべき傾向として、いくつかの学校・学年で、式の変形の流れを、数学の用語を使って文章で説明させる問題が出ています。このような問題は、高校入試で出題される可能性は極めて低く、ワークにも載っていないことが多いですが、定期テストでは時々見かけます。出題されるのは「学校の授業で先生が力を入れて説明していた」というケースが多いので、学校の授業にしっかり集中して取り組んでいくことが大切です。例年では中 3・中 2 は、社会が一番平均点が高く、数学が一番低い傾向にあるのですが、今回の数学の結果が予想外に良かったので、現在の指導体制を含めて詳細に分析をしていきたいと思っています。「数学こそ授業が必要」「なぜなら単純な暗記教科ではないから」という考えが一般的ですが、大学受験勉強までを、さんざん見てきた経験から考えると、「数学のような考える学問は、自分で考えた量に比例して成績が上がる傾向が強い。」という考え方も持っています。大切なのは塾生の学力が身につく指導体制を模索し続けることです。導入授業と問題演習と管理体制を見直して、必要に応じてどんどん改善していきます。

●理科

全体的に難しかったと思いますが、数学同様に結果が良かったです。全学年とも良かったです。特に中 2 は前回よりも大幅に伸びました。中 3 もかなり伸びましたね。中 3 の理科は学校により範囲がやや異なりますが、「化学変化とイオン」「生物分野・遺伝など」が中心でした。少し前まで高校 1 年生で学んでいたことが多く入っており、保護者の皆様も一度見ておかれるといいと思いますが、中々難しい問題でした。しかしながら、学校のテキストを中心にしっかりと対策をしておけば 80 点以上は取れたと思います。中途半端でなくしっかりと理解して暗記した生徒がいい結果に繋がっていました。附属の理科だけはかなり特殊な問題が出ていましたね。対策が難しい？学校の授業をしっかりと聞いて理解するしか方法のないような問題がいくつか出ていました。塾や既存の問題集では対応が難しい学校独自の問題なので、塾生に学校の授業の受け方をもっとしっかりと指導していく必要を感じました。

●英語

年々、難しくなってきましたね。文法中心の勉強で育った我々大人の世代から見ると、まずリスニングの量に驚きます。また会話形式の問題と長文・作文の問題が中心となり、語彙や文法を勉強しておけば点数が取れるような教科ではなくなりました。中 1 の英語はまだ易しく感じましたが、中 3・中 2 の英語はかなり難しく感じました。塾生平均点は中 3・中 2 とともに伸びていますが、他教科に比べると伸びが低く、次回以降の指導に改善が必要だと感じています。

●各中学別の傾向として

学校により、科目や学年などで一部難しかったり、易しかったりという問題はありますが、全体的に見ると、どの中学もだいたい問題のレベルは同じです。(附属・橋北・西橋内は、上位に優秀な層が若干多い印象があるのと、やや癖のある問題が目立ちました。) ※別紙：判明分の学校・学年別の平均点も参考にしてください。

理由は様々ですが、伸び悩んだ生徒が若干数いました。次回は大幅に上げていけるように必要に応じて指導体制を改善していきます。(毎年そうですが、新学年に入り、各中学もテスト作成者が変わる場合が多く、蓋を開けてみないと、今年1年間の学校の問題傾向が見えてきません。さらに現在は学習指導要領改訂の最中です。問題の傾向がどんどん変化しています。今回結果が伴わなかった塾生たちも、中間テストがなくなっていなければ、中間テストで伸び悩んでも、様々な意味で、期末テストでカバーしてあげることができたのに・・・という思いがあります。しかし、愚痴を言っても仕方ありません。次に向けて進んでいきます。)

●指導体制について (覚えたかどうかのチェック体制について)

質問体制よりも気になっているのが、生徒が覚えたかどうかのチェック体制です。現状のやり方ではまだ不備があり(生徒が覚えていないのに先に進ませている。生徒によるが、漏れがある。)次回以降、早急に改善していくことが必要。講師も昨年までの授業中心のスタイルに慣れきっており、悪い言い方をすれば、「授業をしていればよく、成績が上がるかどうかは生徒任せ」というスタイルから「授業もするが、何より大切なのは生徒が理解し、覚えたかどうかをチェックすること。成績が上がらないのは講師にも責任があり、プロとして恥ずかしいこと。」というように、指導スタイルの意識を変えてもらうために、日々研修を重ねていきます。

今回の結果に対して、成績が上がった生徒と一緒に心から喜んでいる講師が増えました。成績が下がった生徒に対して責任を感じている講師が増えました。

子どもたちも、結果に対して、今まで以上に喜んでいたり、悔しがっていたり、落ち込んでいたりしている印象です。全ては一生懸命に取り組んだからこそだと思います。人は、一生懸命に取り組むことで、心に感動が生まれます。これが子どもたちの成長に繋がっていきます。

●最後に

結果が出せる塾になっていきます。我々はそこから逃げずに、向き合い挑戦を続けます。「一人でも多くの子供たちが自信をもって前に進める人生になってほしい。」「教育を通じての地域貢献とは何なのか?塾の存在価値は何なのか?」「お父さんやお母さんに心から喜んでもらえるような塾にしたい。」「子供たちが伸び続けるために、そんな人生に貢献できるような塾にしていきたい。」「学力を身につけ、成長し、世のため人のために貢献できるような人になってほしい。」

次回以降、さらに気合をいれて指導させていただきます。よろしく申し上げます。